

報告 1

北京のビジネスマン

ここ北京でも 9 月 15 日から 18 日にかけて大使館周辺で激しい反日デモがあり、日本の報道でもあったように、一部日系企業や日本料理店は休業を余儀なくされました。現在、反日デモは鎮静化し、一見街は普段と変わらない様子に戻っていますが、一部小売店では日本製品が撤去されたり、タクシーの乗車拒否が依然として散見される等の影響が出ています。

現地で生活している日本人も今回の反日デモに対する反応は様々です。10 年以上北京で生活している日本人は 05 年、10 年の反日デモを経験しているせいか、比較的冷静に対処していたようですが、こちらに来て間もない駐在員や家族同伴で駐在している人達は現在も神経を使いながら生活をしているようです。

そんな中、先日、北京の日系企業で働く方々と話す機会がありました。反日デモの影響による厳しい現実がある一方で、次のビジネス展開のことや、今後中国のどのマーケットをどのように攻めて行ったらいいか等、将来のビジネスの布石のために積極的に情報交換しており、中国で働くビジネスマンのタフさ、フットワークの軽さを感じました。(笠原)

報告 2

建州 60 周年を迎えた延辺朝鮮族自治州

延辺朝鮮族自治州は吉林省の東部に位置し、ロシア、北朝鮮と国境を接しています。また、国内唯一の朝鮮族自治州である。面積は 42、700 平方キロメートル、人口 218 万人。うち朝鮮族は 79 万 8 千人で全体の 36.5 パーセントを占めています。

9 月 3 日、延辺州が成立 60 周年を迎え、その記念式典が州都の延吉市内の人民スタジアムで開かれ、国内外から 2、000 人を超える来賓が招かれました。あいさつの後、銅鑼の合図とともに、大型アトラクション「延辺賛歌」がフィールドと一部観客席を使い披露されました。来賓席の正面に座る 7、000 人の小学生によるマスゲームが印象に残りました。

会場となった人民スタジアムのほかに図書館、博物館などが今年建設されました。また主要道路を整備、それに沿うビルの外観を化粧し直し、この度の祝賀期間中、夜はライトアップで装飾。また 3 日は花火が打ち上げられ、大勢の市民が河岸に集まり 60 周年を祝いました。

「礼儀の故郷」、「歌舞の故郷」、「教育の故郷」などと称される延辺州。この地を舞台に長吉図(長春・吉林・図們江)開発開放先導区規画など国の政策が推進されています。長春から琿春までの高速道路も開通し、地の利を活かし、日本を含む周辺国との交流促進がここをさらに発展させていくと思いました。(近藤)



迫力ある演出。中国一のマスゲーム



当日の演出参加者は約 23,000 人という



この日は中央テレビ台の中継車も



延边歌舞団による公演「9月の夢を放つ」
朝鮮族の伝統文化を披露（2日夜）



プルハトン河の夜景（3日花火の夜）



河は図們江。鉄橋はロシアと北朝鮮（右岸）
を結ぶ鉄道橋。その左に白く見えるのが
中国の建物。（延边州琿春市 4日）

報告 3

第 8 回中国延吉・図們江地域国際投資貿易商談会に出展

第 8 回中国延吉・図們江地域国際投資貿易商談会が 9 月 2 日から 4 日吉林省延边朝鮮族自治州（以下延边州）延吉市の延吉国際コンベンションセンターで開催されました。報道によると、今回の商談会ではブース数は 300 余り、主に特産食品、医薬、衣類など 8 つの展示エリアが設けられ、8000 人余りの来場者があったとのこと。新潟市からは市内企業 3

社が出展し、会期中自社商品を積極的に売り込み、現地バイヤーとの商談を行いました。

延辺州はロシア、北朝鮮と国境を接しており、対北朝鮮、韓国、ロシアとの経済貿易において地理的優位性を持っています。延吉市は延辺州の州都で、人口約 50 万人、中国国内では特別大きい都市ではないですが、市内スーパーやデパートには多くの韓国製品が並んでおり、また海産物や農産物などは北朝鮮からのものも多く見られ、品数や品種は他の同レベルの地方都市と比べて豊富で、周辺国との経済交流が非常に活発であることを示しています。

このような延辺の地理的優位性に着目しているのは新潟だけではなく、秋田県や鳥取市といった日本海側の自治体も県・市内企業と共に今回の商談会に出展し、県・市製品の PR や販路開拓に力を入れていました。(笠原)



展示会場入り口：ハングルと中国語が併記されているのが印象的



会場を視察する新潟県副知事訪問団

北京スタッフ便

暮らしは都会に、愉しみは農園へ

「開心農園」(Happy Farm)というネットゲームをやったことがありますか。プレイヤーはゲームの中で農園の経営者になって、その仮想の土地で野菜や農作物の種の購入から種まき、灌漑、施肥、除虫、収穫、販売以外に、花卉・果樹の栽培、家畜やペットの飼育、建物を建てることもできます。

このオンライン・ゲームは2008年3月に制作された「開心網」という中国国内で初めての若年サラリーマンを主とするソーシャルネットワークサイト(Social Network Site)によって開発されました。週五日間鉄筋コンクリートで建てられた高層ビルの中で働くだけではなく、住まいも同じく高層マンション。その圧迫感やストレスを解消する一番の方法は豊かな大自然に戻り、昔ののんびりした農耕生活を愉しむことです。したがって、このゲームは2009年2月に市場に出てから、サラリーマンの中で人気を博し、しばらく中国全土を風靡しました。

都会の郊外に農地を持っている農家たちがこのゲームからどれほど農地経営のヒントを得たのかわかりませんが、この2、3年、北京市内に距離的に近い郊外の密雲県、怀柔県、大興区、昌平区には農地の短期賃貸借をやっている農園が増えてきました。賃貸借時期はほとんど4月～11月、面積は10平米から様々で、作付け種類は野菜、トウモロコシ等

その期間中に収穫できる作物。料金は農園によってそれぞれ異なりますが、北京でもっとも早く農地の短期賃貸借を始めた農園と言われる密雲県に位置する「週末農園」の料金は、一部管理依頼(賃借者は定期的に農園へ行って菜園を管理する)の場合、約17元/m²、全部管理依頼(種まきから、日常管理、収穫まで全部農園が管理する)の場合、約25元/m²。農園のほうは看板、種、有機肥料、水、農具と栽培技術のサポートを提供するほか、共用厨房、食堂、宿泊施設やキャンプ場も提供します。賃借者は借りた菜園で取れた野菜や農産物を収穫し、家族と農耕を愉しむことができます。サラリーマンのストレス解消と定年後のお年寄りの余暇にぴったりの場所として、特に食べ物の安全性に対する関心が高まってきた現在、有機農園の人气が益々増えると思われます。(鞠)



「開心農園」(Happy Farm)というネットゲームの開始画面



「週末農園」の賃貸借菜園の看板の一つ



「週末農園」でとれたトマト、冬瓜、サツマイモ、トウモロコシ